

フィロウイルス感染の分子基盤の解明 — 生体膜ダイナミクスに着目して

Molecular Basis of Filovirus Infection

— Insights into Host Cell Membrane Dynamics —

日時: 2026年3月27日(金曜日)

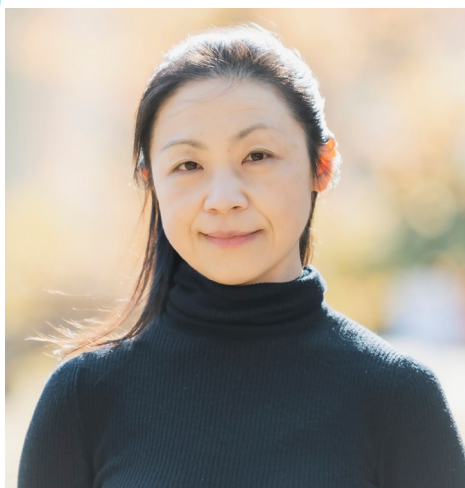
17:30 ~ 19:00

場所: 医学部第二講堂 (研究棟B 2階) + Web

*本講演は、医学研究先端講義(先端医学トピックス)および病原体等安全管理におけるレスポンシブルケアを兼ねております。



Teams URL: https://teams.microsoft.com/l/meetup-join/19%3ameeting_ZGQ1MTRiNmMtNDcwMS00YjI2LThmNjMtNWZkYzQ2ODUxMTVI%40thread.v2/0?context=%7b%22Tid%22%3a%2220ee4c80-87bd-422c-a506-3a2b0aca0615%22%2c%22Oid%22%3a%22e07b1919-9bb7-4cbc-952a-519282a2619d%22%7d



南保 明日香 教授

長崎大学 高度感染症研究センター
ウイルス感染動態研究分野 教授

エボラウイルスやマールブルグウイルスが属するフィロウイルスは、世界的な公衆衛生上、深刻な脅威となるウイルス性出血熱を引き起こします。これらのウイルスは、高度安全実験施設(BSL-4施設)でのみ増殖を伴う取扱いが可能であるため、その生活環に関わる分子機構には未解明な点が多く、有効な予防法や治療法も依然として限定されています。

フィロウイルスをはじめとするエンベロープウイルスは、感染細胞由来の脂質二重層からなるエンベロープを粒子表面に有しており、増殖過程において宿主細胞の生体膜を巧みに利用することが知られています。我々はこれまで、さまざまなイメージング技術を駆使し、宿主細胞の生体膜ダイナミクスという観点からフィロウイルスの感染機構の解明に取り組んできました。

本講演では、フィロウイルス侵入およびウイルス粒子形成の分子基盤について、私たちの研究グループによる最新の知見を紹介します。あわせて、正式稼働に向けて準備が進められている、我が国初の陽圧防護服型BSL-4施設の整備状況についても概説します。

担 当: 大学院医学研究科 附属感染症センター 臨床ウイルス学分野
教授 森 康子

主 催: メディカルトランスフォーメーション研究センター(CMX)

連絡先: 研究支援課研究企画係 天羽 (内線5189)

E-mail: k9shien@med.kobe-u.ac.jp